高岡町埋蔵文化財調査報告書第32集

高岡町内遺跡Ⅸ

2004年 3月

宮崎県高岡町教育委員会

高岡町埋蔵文化財調査報告書第32集

高岡町内遺跡IX

2004年3月

宮崎県高岡町教育委員会

序　文

高岡町は、宮崎市の近郊に位置し諸開発の増加が予想されます。高岡町教育委員会では、これらに対応するため、平成３、４年度に実施した町内遺跡詳細分布調査の成果をもとに、開発に伴う遺跡の確認を目的とした町内遺跡発掘調査を実施しております。本書は、今年度に実施したそれらの調査の報告であります。この調査が、これからの開発と埋蔵文化財保存とが共存しうるきっかけになることを希望します。

最後に、調査に御協力頂いた諸関係機関や地権者の方々に深く感謝申し上げます。

平成 16 年 3 月

高岡町教育委員会

教育長　中山芳教

例　言

1. 本書は、高岡町教育委員会が文化庁ならびに宮崎県教育委員会の補助を受けて実施した町内遺跡発掘調査の報告書である。

2. 本書は、平成15年度に実施した試掘・確認調査の報告を掲載している。

3. 小川路遺跡の遺跡番号は611、高岡麓遺跡の遺跡番号は406、原田遺跡の遺跡番号は414、遺物の注記はそれぞれ「遺跡番号－層位（遺構番号）－取上番号」とし、遺物の保管は高岡町教育委員会である。
4. 本書の編集は島田正浩がおこない、各文責は末尾に記した。

目　次

Ⅰ　はじめに…… 5
　第1節　高岡の環境…… 5
Ⅱ　確認調査…… 6
　第1節　平成15年度の調査…… 6
　第2節　小川路遺跡…… 8
　第3節　高岡麓遺跡25地点…… 9
　第4節　原田遺跡…… 12

挿図目次

第1図　町内遺跡調査位置図…… 6
第2図　小川路遺跡周辺地形図及びトレンチ配置図…… 8
第3図　小川路遺跡土層柱状図…… 8
第4図　高岡麓遺跡25地点位置図…… 9
第5図　高岡麓遺跡25地点トレンチ配置図…… 10
第6図　原田遺跡周辺地形図及びトレンチ配置図…… 12
第7図　原田遺跡基本柱状図…… 13

写真図版目次

図版1　作業風景…… 7
図版2　小川路遺跡調査地、小川路遺跡トレンチ…… 9
図版3　高岡麓遺跡25地点調査地、7 Tr、9 Tr、12Tr、14Tr、15Tr検出溝状遺構…… 11
図版4　16Tr、17Tr…… 12
図版5　原田遺跡調査地、1 Tr、4 Tr、6 Tr…… 13

表目次

表1　平成15年度町内遺跡調査一覧…… 7
表2　報告書登録抄…… 14

Ⅰ　はじめに

第１節　高岡の環境

70%以上を山林が占める高岡町は、東部に宮崎平野を眼下にし標高 170 m以上の台地が西部に広大に広がる。

高岡町の遺跡は、現在知られているだけで 140 箇所あり、それらの遺跡のほとんどは、町中央を東流する大淀川やその支流（内山川・浦之名川など）により形成された河岸段丘上に位置している。

旧石器時代では、1993 年に調査を実施した向屋敷遺跡は、集石遺構と共にナイフ形石器やスクレイパーが出土している。また、近年では、高野原遺跡、永迫第２遺跡でＡＴ下位の調査が実施されている。

縄文時代の遺跡は、特に早期と後期の遺跡が多く知られており、早期は、橋山第１遺跡、天ヶ城跡、橋上遺跡、久木野遺跡、八久保第２遺跡、高野原遺跡、永迫第２遺跡、向野遺跡などの 11 遺跡で、すでに発掘調査が実施されている。橋山第１遺跡は、早期と後期初頭の遺構遺物が検出された。早期は、幾形式かの集石遺構と、それに伴い、前平・塞ノ神式等の貝殻文系円筒土器や押型文土器、そして、環状石斧などが出土している。後期は、阿高系の岩崎式土器が出土している。また、多くの石鏃が出土しており、当時の生活環境を知りうることができる。天ヶ城跡は、標高 120 mの独立した丘陵に位置し、集石遺構に伴い押型文を中心とした早期の遺物が出土している。表採資料からは、山子遺跡が以前から知られており、油之名川上流に位置する赤木遺跡と同様に後期の貝殻条痕文土器が表採される。

弥生時代では、丹後堀遺跡や学頭遺跡があげられる。学頭遺跡は複合遺跡であり、時期は中期後半から終末までが確認されている。また、城ヶ峰遺跡では、後期の遺物が出土している。

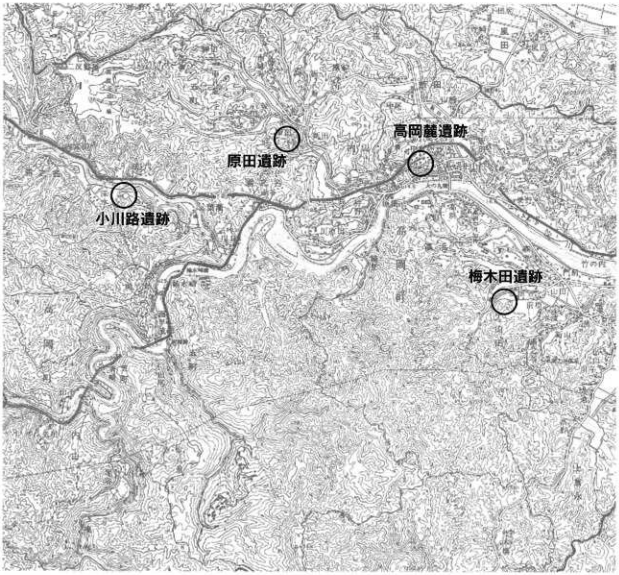
古墳時代では、久木野地下式横穴墓地群で３基の調査が行われており、1984 年の調査では鉄斧と玉類が出土し６世紀前半とされている。また、学頭遺跡では初頭～前期にかけての遺物が出土し弥生時代から引き続き集落が営まれている。それに隣接した八児遺跡でも７世紀代の住居跡が検出されている。

古代は、文献によると高岡周辺は「穆佐郷」と言われていた。古代になると、向野遺跡、宗栄司遺跡、蕨野遺跡、一生江遺跡４遺跡で調査が行われている。蕨野遺跡では、９Ｃ後半の土師器生産に伴う焼成土坑（窯）が検出されている。

中世では、12 世紀に「島津庄穆佐院」といわれ、南北朝期を経て、島津氏と伊東氏の興亡の歴史の中に入っていく。この時代の代表的なものは山城である。南北朝期は、穆佐城が日向の中心となり足利氏の九州における勢力拡大の拠点となった。それ以後、小規模な山城が点在したと考えられ、現在 10 箇所以上（文献等では 18 箇所）を確認している。穆佐城は、縄張り調査により、南九州特有の特徴をもつとともに、機能分化をもたせた山城として評価されている。その後、穆佐城は、津崎久豊（８代）・忠国（９代）の居城、伊東氏 48 城のひとつとなるなど両氏の勢力争いの表舞台にあった。

その穆佐城の西側の低地に在る梅木田遺跡からは、15 世紀後半以前の護岸施設をもった水路が検出され、出土した杭から当時の植生を復元する試みがなされている。

この時期までの中心地が穆佐城周辺だったのに対して、近世になると天ヶ城周辺に一変する。薩摩藩は、天ヶ城（高岡郷）と穆佐城（穆佐郷）の麓地に多くの郷士を居住させた。そして、綾、倉岡とともに関外四ヶ郷として、特に高岡郷はその中心として薩摩藩の東側の防御の要として発展する。高岡麓遺跡では、計画的な街路設計がなされ郷士屋敷群と町屋群に分割されている。１地点の町屋の調査では素掘の井戸や土坑等を検出した。８地点は武家門跡や土坑が確認されている。



第１図　町内遺跡調査位置図

Ⅱ　確認調査

第１節　平成 15 年度の調査

さて、最近の町内の傾向は、宮崎県中部農林振興局が事業主体となる農道関連の開発が増加していたが、この傾向はやや落ち着いた感がある。さらに、個人住宅などの民間開発は、景気低迷もあり横這い傾向である。

今年度の確認調査における体制は、次のとおりである。

教育長	中山芳教
社会教育課長	小岩崎正
文化財係長	島田正浩
主　　事	廣田晶子
宮崎県文化課	和田理啓

平成15年度は確認調査を3箇所おこなった。原因内訳は公共事業が2箇所と民間開発が1箇所で、詳細は次のとおりである。

また、町内遺跡において、小山田地区圃場整備に対応して梅木田遺跡の本調査を実施している。

表1　平成15年度町内遺跡調査一覧

	遺跡名	場　所	調査区分	調査期間	原因	成　　果
1	小川路遺跡	大字浦之名 1528-2	確認調査	H 15. 6. 26	鉄塔建設	遺構、遺物無し
2	高岡麓遺跡 25 地点	大字内山 2900、2899-1	確認調査	H 15.7.29 ～7.31 H 15.10.27	施設建設	花壇の場所は高く造成されており、以前はグラウンドと同じである。 グラウンドでピットや溝状遺構を検出した。
3	原田遺跡	大字五町 907-2	確認調査	H 15.8.1 ～8.6	農道整備	遺構無し。焼礫と縄文土器が数点表土

図版1　作業風景

小川路遺跡

高岡麓遺跡 25 地点

高岡麓遺跡 25 地点

原田遺跡

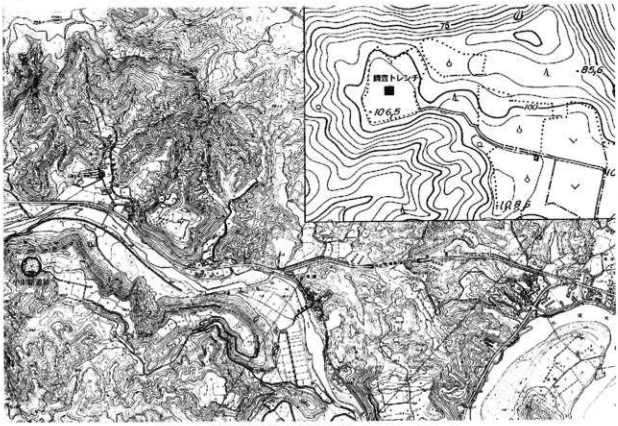
原田遺跡

整理作業

第２節　小川路遺跡

１遺跡の立地

調査地は大字浦之名 1528-2 である。 高岡町西部では、国道 268 号線が大淀川の支流である浦之名川に沿って延びている。その国道北側には浦之名小学校が在り、ちょうどその反対にあたる浦之名川を挟んだ南側の丘陵に遺跡が立地している。丘陵は浦之名側に面する北側は急傾斜となり、南側は痩せた尾根の山々が連なる。調査地はその丘陵西側先端に位置する。遺跡周辺は、東側に川谷遺跡や今城跡（中世）、西側には昨年度確認調査を実施した古宮田遺跡が在る。



第２図　小川路遺跡周辺地形図及びトレンチ配置図

２調査経緯

平成 15 年６月 17 日、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ九州の委託業者である[redacted]から工事予定地内の文化財の有無についての照会があった。高岡町教育委員会は、そこが小川路遺跡内であることからその旨を回答した。６月 23 日に株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ九州から当該遺跡地においての埋蔵文化財発掘の届出がなされたため、工事予定地内の埋蔵文化財の取り扱いについて協議した。

その結果、６月 26 日に当教育委員会で埋蔵文化財の状況確認を目的とした調査を実施した。工事予定面積は 100㎡ であり、約 2㎡ の確認トレンチを１箇所設定した。調査地へ向かう途中で鶏舎があり、遠回りを余儀なくされた。

第３図　小川路遺跡土層柱状図

３調査結果

工事予定地は杉林となっており、南側が高く北側へ緩やかに傾斜している。工事予定地のほぼ中央にトレンチを設定した。トレンチ

の土層状況は、表土30㎝、アカホヤ火山灰（2次アカホヤ含む）40㎝でその下に縄文早期に相当する牛のすねローム層と淡褐色土が堆積する。その下に黒褐色ブロック層を挟んで小林降下軽石が斑に入る。このように土層の堆積状況は、高岡町内での標準的なものであり安定している。調査の結果、遺構や焼礫を含む遺物は確認されなかった。

図版2

小川路遺跡調査地

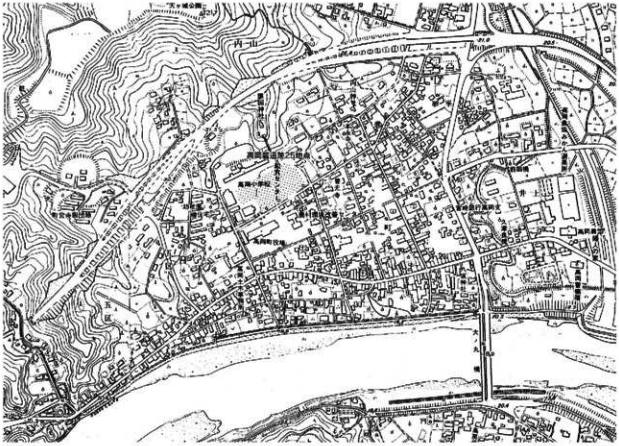
小川路遺跡トレンチ

第3節　高岡麓遺跡25地点

1遺跡の立地

高岡麓遺跡は天ヶ城と大淀川に挟まれた低地一帯にある。飯田川を東端とし、内山川と大淀川の合流地付近を西端とした、江戸時代以降に形成された麓を範囲とする。

高岡麓は、武家屋敷群と町屋を配した城下町を形成するが、その形成過程はわからないことが多い。平成4年からは、24箇所で埋蔵文化財保護処置を行っており、本調査では近世だけでなく、古墳時代中


内山
高岡麓遺跡25地点
高岡の学校
高岡町役場
高岡郵便局
高岡農協
高岡麓
高岡麓
高岡麓

期から中世の遺構や遺物が確認されている。

25地点は、高岡小学校敷地内に在る。ここは高岡の地頭仮屋や錬志館が置かれた所でもあり、当時の高岡の政治的中心地である。絵図等によれば、地頭仮屋はグラウンドの北側、錬志館は現在の剣道場と花壇がある所の東側に推定される。

２調査経緯

高岡小学校校舎改築の計画があり、平成14年度に建設予定地の埋蔵文化財の取り扱いにおいて教育委員会内で協議を行った。その結果、遺跡の状況確認等を目的とする調査を行いその調査結果を基に再度協議することとなった。当初建設予定地は体育館や花壇周辺の敷地であったため、平成15年３月、その敷地内に４カ所のトレンチを設定して調査を実施した（１次確認調査）。その調査においては、調査箇所が少なかったこともあり、地山上の確認や遺物等からは遺構等の密度や残存状況を明確にすることが出来なかった。そのため花壇内北側を中心に７カ所のトレンチを設定して、平成15年７月29日～31日まで調査を実施した（２次確認調査）。その調査過程で、調査地が埋土造成している可能性が出てきたため、最終日に学校グラウンドの西端に地山確認のためのトレンチを２カ所設定した。その後、建設予定地が変更になり、学校グラウンド内に建設する内容となった。そのため、学校グラウンドに６カ所トレンチを設定し、平成15年10月27日に調査を実施した。（３次確認調査）

３調査結果

２次確認調査

５Ｔｒ（１×６ｍ）を花壇内南側に設定。深さ1.3ｍまで掘削するが、青灰色粘土の埋土であり地山は確認できなかった。６Ｔｒ（05×６ｍ）も５Ｔｒと状況は同じであった。しかし、昨年度調査の４Ｔｒ検出の地山は振地山の可能性が出てきた。そのため、花壇内北側に６～９Ｔｒを設定した。７Ｔｒと９

第５図　高岡舘遺跡25地点トレンチ配置図

Ｔｒでは、現校舎建設時に丘陵部を削平した土砂と思われるものが埋土として使用されており、その下に青灰色粘土層、その下に本来の地山が確認された。10Ｔｒ（2×4ｍ）と13Ｔｒ（2×3ｍ）は、花壇の西側に設置した。どちらも、深さ約1.0ｍで地山を検出した。また、これらの地山とグラウンドレベルの関係を確認するため、グラウンド西端に11Ｔｒ（3×4ｍ）と12Ｔｒ（1×3ｍ）を設定した。深さ0.2ｍで地山を確認し、その地山面から染付皿（伊万里）や礎石としても使えそうな砂岩礫が出土した。

以上のことから、花壇付近はグラウンドと同レベルであり、明確な遺構自体は確認されなかったものの磁器等の出土もあることから、何らかの遺構の存在が推定される。

３次確認調査

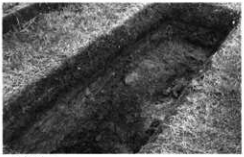
学校グラウンドを中心に設定した。14Ｔｒ（1.5×25ｍ）はグラウンドの北側の設定した。約0.2ｍで地山を検出する。ただし、東側10ｍ程は地山土が深く落ち込みが確認される。その落ち込みの埋土から掘り込むようにピットが検出されたが、磁器は不明である。15Ｔｒ（1.5×7ｍ）は0.3ｍで地山面を確認したが、トレンチ西側で溝状遺構（埋土は灰褐色粘土）を検出し、そこから土師器小皿片が出土した。16Ｔｒ（1.5×15ｍ）は1ｍ以上地山面が落ちていた。17Ｔｒ（1.5×8ｍ）は、0.5ｍ程のところで切石が埋まっていた。ちょうど旧校門が在ったところに近く、その関係の遺構かと思われる。18Ｔｒと19Ｔｒは何も確認できなかった。

以上のことから、グラウンド内北側においては遺構の存在が確認できた。（島田）

図版3

高岡麓遺跡25地点調査地

7Ｔｒ



9Ｔｒ

12Ｔｒ

14Ｔｒ

15Ｔｒ検出溝状遺構

図版4

16Tr

17Tr

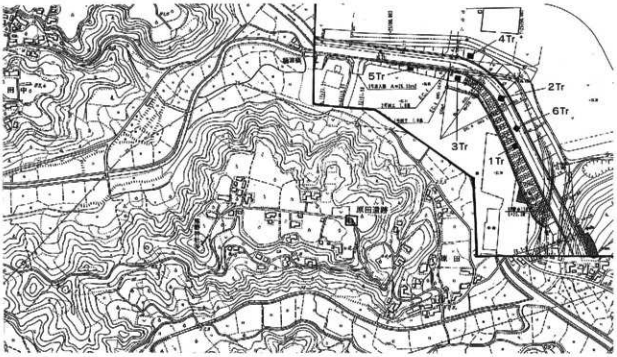
第4節　原田遺跡

1遺跡の立地

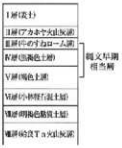
調査地は大字五町907-2である。遺跡は、大淀川右岸の小丘陵上に立地する。東方向に舌状に延びた独立丘陵であり、遺跡はその東縁辺部に位置する。丘陵西端には熊野神社がある。丘陵下には大淀川の支流である内山川が東流する。

2調査経緯

平成15年7月27日、高岡町役場農村整備課から農道整備事業工事予定地内の文化財の有無についての照会があった。高岡町教育委員会は、そこが原田遺跡内であることからその旨を回答した。7月28日に、町農村整備課と工事予定地内の埋蔵文化財の取り扱いについて協議した。その結果、8月1日、6日に当教育委員会で埋蔵文化財の状況確認を目的とした調査を実施した。約4㎡の確認トレンチを6箇所設定した。工事予定地は、アスファルト舗装の道路及びその両側の畑地・雑草地などであったため、調査は掘削予定地の伐採作業から行った。



第6図　原田遺跡周辺地形図及びトレンチ配置図



第７図　原田遺跡基本柱状図

３調査結果

１Ｔｒは、造成上であるシラスと表土（約45cm）を除去後、縄文早期相当層であるⅣ・Ⅴ層から、焼礫が数点出土した。

２Ｔｒは、表土除去後、Ⅱ～Ⅳ層は確認されず、Ⅴ層～Ⅶ層の堆積を確認した。遺物の出土は無かった。

３Ｔｒは、表土が65cm堆積していた。直下層のⅤ層から焼礫が１点出土した。Ⅵ層まで確認したが、遺物の出土は無かった。

４Ｔｒは、トレンチの 1/3 は撹乱を受けていた。表土直下のⅤ層から焼礫が２点出土した。Ⅵ・Ⅶ層を確認したが、遺物の出土は無かった。表土中で縄文後期土器が出土した。

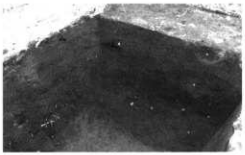
５Ｔｒは、表土が130cm堆積していた。Ⅱ・Ⅲ層を確認したが、遺物の出土はなかった。Ⅳ層以下については、掘削深度が２ｍを超えるため確認できなかった。

６Ｔｒは、Ⅴ層から焼礫が数点出土したが、包含層は削平されており残存状態は良くなかった。Ⅵ層上面まで堆積を確認した。表土中から縄文土器が１点出土した。

調査の結果、遺構は検出されず、遺物は表土中で縄文土器が２点出土したのみである。縄文早期相当層であるⅣ層・Ⅴ層から焼礫の出土が確認されたが、土層の堆積状況は良好ではなく、遺跡の残存状況も良いとは言えない。（廣田）

図版５

原田遺跡調査地



１Ｔｒ

４Ｔｒ

６Ｔｒ

表2　報告書登録抄

フリガナ	タカオカチョウナイイセキ
書名	高岡町内遺跡Ⅸ
シリーズ名	高岡町埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第32集
編集者名	島田正浩
発行機関	高岡町教育委員会
所在地	宮崎県東諸県郡高岡町大字内山2887番地
発行年月日	2004年3月31日

収蔵遺跡名	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	緯度	経度	調査期間	調査面積	調査原因
小川路遺跡（おがわじ）	高岡町大字浦之名（うらのみょう） 1528-2	45 − 381	611	31° 56′ 55″	131° 14′ 40″	H15.6.26	2㎡	電波鉄塔建設
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物				特記事項
散布地	無	無		無				

収蔵遺跡名	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	緯度	経度	調査期間	調査面積	調査原因
高岡麓遺跡（たかおかふもと） 25地点	高岡町大字内山（うちやま） 2900,2899-1	45 − 381	406	31° 57′ 15″	131° 18′	H15.7.29 ～31 H15.10.27	129㎡	校舎建設
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物				特記事項
散布地	中世　近世	溝状遺構		土師器皿、染付、瓦				

収蔵遺跡名	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	緯度	経度	調査期間	調査面積	調査原因
原田遺跡（はった）	高岡町大字五町（ごちょう） 907-2	45 − 381	414	31° 57′ 26″	131° 16′ 28″	H15.8.1 ～6	24㎡	農道整備
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物				特記事項
散布地	縄文時代早期	無		縄文土器				

高岡町埋蔵文化財調査報告書第32集

高岡町内遺跡Ⅸ

2004年3月発行

発行所　宮崎県高岡町教育委員会
宮崎県東諸県郡高岡町大字内山2887
〒880-2292　☎0985-82-1111

印刷所　小柳印刷株式会社
宮崎県宮崎市旭1丁目6-25
〒880-0803　☎0985-24-1512